

Contents

❖ 会員企業インタビュー	1・2
❖ 活動報告(1~3月)	3
❖ これからの活動(イベント)情報	4
❖ スタッフ紹介	4
❖ 編集後記	4



イーメル工業株式会社

会員企業インタビュー

イーメル工業株式会社は、1947年(昭和22年)に創業され、水車発電設備の新設・取替え・維持管理を主業とする水力発電プラントメーカーです。中小水力の水力発電プラントを取り扱っており、中国地方を中心にエリアを拡大しています。

近年では、国内外における再生可能エネルギーへの関心の高まりも追い風に、大きな注目を浴びる企業です。今回の「つながる」では、イーメル工業株式会社の中井社長、国久執行役員に、事業展開や人材育成、大学との連携等幅広い内容でインタビューを行いました。



中井社長・国久執行役員

—近年、貴社の小水力発電事業は大変注目されています。

小水力発電に取り組まれるに至った経緯を教えてください。

弊社が創立された1947年は、ちょうど戦後の電力不足の時期であり、合わせて農村が疲弊しているという時代背景がありました。そのような中で、創業者・織田史郎(三段跳びで日本人初のオリンピック金メダリストとなった、織田幹雄氏の実兄)は、「中山間地域に電気が足りない。農村が元気にならないと、日本が元気にならない!」という想いから、出身の電力会社で学んだ経験を生かし、自身で水車の設計に独自開発で取り組みました。新たな事業を立ち上げたという意味では、当時の「ベンチャー企業」とも言えます。

「イーメル」(EAML)の語源は、Electric(電気)、Agriculture(農業)、Machine(機械)、Life(生活)の頭文字を並べたものです。元々は、電気機器を表す別の頭文字(Apparatus(器具)、Light(照明))を語源としておりましたが、弊社事業と農業との関連性が深まる中で、時代の流れと共に語源も変化してきました。

—顧客や競合等はどうのような先になりますか。

創立当初は、農村に電気を十分に供給するという主旨から農業協同組合が主な顧客でした。その後、電力会社とも取引が始まり、県の公営企業局等顧客網が広がっています。他社の事例ですが、最近では一般の方が共同でファンドを設立し、売電を目的とした小さな発電所を作る事もあります。

再生可能エネルギー固定価格買取制度においては、200kW未満の規模の買取価格が高い為、その規模の設備設置が多くなっています。メンテナンスでは、1,000~10,000kWの規模のものを得意としています。

弊社の競合としては、幅広い規模の設備を手がけている大手企業も存在しています。中小企業においては、水力発電メーカーとして一般的に認められているのは、東日本で数社、西日本では弊社のみとされていましたが、今後増えてくるでしょう。

<裏面に続く>

—火力・原子力等様々なエネルギーが台頭してくる中で、水力に拘ってきた理由は。

創立当時は、そもそも火力や原子力といったエネルギーは無かったので、水力発電に取り組む事は自然の流れだったと言えます。ただ、会社の浮き沈みの中で苦しい時期があった事も事実です。その中でも水力に拘ってきたのは、「水を愛し、無限の水エネルギーを利用して、かけがえのない地球環境を守り、豊かな社会を築きます」という会社理念を守ってきたという事に尽きます。おかげ様で、今は再生可能エネルギーが注目されており、長年拘ってきた甲斐があったと思います。

—今後の事業展開について教えてください。

中国地方を中心に、西日本で培ってきた経験をベースとして、東日本にも進出していきたいと考えています。ただし、弊社の事業においては、メンテナンス対応が非常に重要です。その為にも、段階的に東日本にも拠点を設け、お客様のご要望に十分にお応え出来る体制を整えていきます。

—海外進出も検討されるのでしょうか。

昨年3月、ラオスに当社の水車を3台設置致しました。これは、JICAが実施するODA事業で国内電気機器メーカーが建設した小水力発電所に提供したものです。これまで、特段のトラブルも無く順調に稼働していると聞いています。

現在の新興国は、弊社創業当時の日本と状況が似ており、無電化地域や電力が不足している地域は多く弊社にとって大きな市場です。その一方で、やはりメンテナンス対応が重要な為、一気に海外進出する事は難しいと考えています。現地企業とも協力し、維持・管理出来る体制を整えていく必要があります。

また、ヨーロッパにおいても日本同様小水力が見直されています。1999年にスウェーデンのポンプメーカーが開発した水中タービン発電機の製造・販売権のライセンスを契約しましたが、そのような関係を生かし、今後連携した事業展開を考えていくつもりです。

—大学との連携について、考えをお聞かせ下さい。

広島大学とは、約10年前からインターンシップで数名学生を受け入れるという形で連携を行っています。最近では、タイ出身の広大留學生が入社し、現在流体力学に関する研究に取り組んでいます。今年も、法学部の学生1名が入社しました。

流体力学に関するものだけでなく、水車で使用する新たな素材の検討やセンサーを使った設備の遠隔モニター、設備のモデル試験における評価の仕方等、幅広い分野での連携は考えられます。

広島大学との共同研究については、これまでは単発で終わっているのが正直なところです。大学との距離が近いという面も生かし、より社内課題解決の為に連携を深めたいと思います。

—広大生も採用頂いているとの事ですが、どのような学生を求めておられますか。

中小企業の特長として、幅広い業務分野に携わる事が出来る点が挙げられます。大学での専門分野に関わらず、入社後は設計・製造・研究等はもちろん、経理等も経験頂くことになり、自身の幅が広がります。

今後海外展開も考えている事から、海外を舞台にした仕事に携わる機会もあります。自身の仕事が、長きにわたって形に残る事も大きな喜びです。中小企業でありながら大手企業とも渡り合えるという点もやり甲斐につながります。注目を浴びている分野でもあり、チャレンジ精神を持った学生さんに是非入って頂きたいです。

—協力会サービスについて、ご意見をお聞かせ下さい。

社内でも研修プログラムの見直しを進めていますが、「イノベーション研修プログラム」は、大学研究者の講義を受講出来る点で魅力を感じます。社内や仲間内だけで得られる技術や知識には限界がありますので、上手く活用する事で幅を広げる事が出来ます。社内研修と組み合わせ利用し、より社内教育の充実を図りたいと思います。



創業者・織田史郎氏の肖像画

インタビューを終えて

創業から一貫して水力発電事業を行ってこられた当社。苦しい時期にあっても、会社理念に基づいてぶれる事なく取り組まれた姿勢が実を結んでいる事に、とても感銘を受けました。

中国地方で築き上げた基盤を元に、日本全国や世界に飛び出すという意味では、広島大学が目指している姿と似ている部分もあります。このような地域企業との「つながり」を深め、地域全体が活性化する活動を今後とも行って参ります。

インタビューアール 橋本 律男、真鍋 幸男、野村 武司



広島大学フェニックス協力会新事業『広島大学フェニックス・サロン』開始のお知らせ

平成28年より、広島大学フェニックス協力会の新たな事業として、『広島大学フェニックス・サロン』を2ヶ月に1回の予定で開始しました。従来の技術的、専門的なイノベーション研修やセミナーに比べ、より学際的なテーマに関して、産業界と大学からスピーカーを招き、講演に続き、参加者との自由なディスカッションを行うイベントです。開催場所はアクセスしやすい東千田キャンパス、また、時間もアフターファイブに気軽にご参加頂けるように設定しています。



フェニックス協力会事業

参加費 無料

広島大学東千田キャンパスで
『広島大学フェニックス・サロン』
が始まります

メキシコに進出を希望される企業やメキシコに興味のあられる学生、企業と大学のメキシコ進出の第1ステップのトークと意見交換の機会を提供します

第1回テーマ
メキシコ

期待される成果
ネットワーク

45分
パネルディスカッション
フリーディスカッション

45分
ゲストトーク

技術相談
共同研究

「メキシコのビジネス」
藤田 修 **ゲスト**
株式会社ヒロテック
経営企画 部長
前ヒロテックメキシコ社長

「メキシコの文化」
青木 利夫 **ゲスト**
広島大学
総合科学研究科 准教授

日時 2016年1月27日(木) 6:30~8:00PM
広島大学東千田キャンパス(広島市中区東千田1-1-89)
総合校舎5棟1階 共用講義室
※会場へは公共交通機関をご利用ください

場所

対象 フェニックス協力会会員、
並びに本学内外の活動に興味を
もっている企業人、学生

申込方法 申込フォームより、申込書がなければ
お電話をおかけ下さい。定員は
50名を超過しません。

申込書ダウンロード
<https://www.fenix.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/12/20160127-fenix-salon-01.pdf>

お問い合わせ先 広島大学学学・産学連携センター
Faculty of Science and Technology
(1362) 424-4300

第1回は1月27日にメキシコをテーマに開催し、(株)ヒロテック前メキシコ社長の藤田修氏、広島大学総合科学科の青木 利夫准教授にご講演頂きました。メキシコに進出を検討されている企業、留学予定の学生、メキシコに関心のある方々約30名の参加を得て、産学・地域連携センターの平見 尚隆特任教授をファシリテーターとして、活発な意見交換が行われました。広島大学はメキシコのグアナファト大学と産学官連携強化も含めた国際交流協定を結んでおります。またグアナファト州には広島の大企業であるマツダが進出し、広島県も同州と覚書を結んでおります。本学はグアナファト州に立地するグアナファトテクノパーク (GTP) のホームページ内に本学のポータルサイトを本年3月に公開し、本格的な拠点設立も検討中です。

『広島大学フェニックス・サロン』は、今後東南アジアの国々をテーマに開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

研究紹介と交流のゆうべ 「歯科からのイノベーション」開催報告

平成28年3月9日(月)、サテライトキャンパスひろしま(広島市中区)にて研究紹介と交流のゆうべ「歯科からのイノベーション」を開催致しました。

広島県内の企業、自治体の皆さまにご参加頂き、「歯科からのイノベーション」というテーマで、大学院医歯薬保健学研究院 二川浩樹教授に講演して頂きました。その後、二川先生も交えての交流会を行いました。

20名の参加者の皆様には、第一部は抗菌抗ウイルス消毒薬の開発などのお話を熱心にご清聴頂き、また第二部では非常に活発な交流を行って頂きました。



広島大学革新的ものづくり研究拠点 平成27年度シンポジウム開催報告

広島大学革新的ものづくり研究拠点(英文略称:Hi-NoM)は、広島県内はもとより我が国のものづくり産業に貢献するため、世界をリードする研究を行うべく平成27年4月に広島大学内に設立されたものです。平成28年3月22日にはホテル広島ガーデンパレスにて、企業・官公庁関係者120名の参加を得て標記シンポジウムが開催されました。

本シンポジウムでは研究拠点リーダーの篠崎教授より、この一年間での企業との共同研究や人材育成とも増加しているとの研究拠点の活動報告が行われました。また基調講演として大阪大学接合科学研究所の片山教授より「レーザ加工の現状と動向」、マツダ(株)技術研究所より「自動車車体の軽量化技術に関する最新動向とマツダの取組について」が講演されたほか、Hi-NoMの積層造形・焼結部会、塑性加工部会、切削・切断部会、材料創製部会、表面改質・表面処理部会、溶接接合部会より最新の研究成果が報告され、活発な討議が行われました。

これからの活動(イベント)情報

フェニックス協会の今後の活動予定をお知らせいたします。ご興味をお持ち頂けたイベントにはぜひご参加下さい。

5月

1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修プログラム (第58回) 繊維補強複合材料の接着技術

日時 5月9日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス 2F セミナー室

講師 高田技術コンサルタント事務所代表 高田 忠彦 (元 帝人(株)、帝人コードタイランド(株))

2 第3回フェニックス・サロン テーマ「ミャンマー」

日時 5月26日(木) 18:30~20:00 場所 広島大学東千田未来創生センター M201講義室

講師 復建調査設計(株) 執行役員 国際事業部長 ヤンゴン事務所長 山口 義満、
広島大学大学院総合科学研究科 教授 奥田 敏統

6月

1 地域企業若手技術者向けイノベーション研修プログラム (第59回) 高分子のレオロジーと成形加工 (理論)

日時 6月6日(月) 17:00~19:00 場所 産学・地域連携センター VBL オフィス 2F セミナー室

講師 広島大学大学院工学研究院 准教授 木原 伸一

各活動の詳細は、<http://www.hiroshima-u.ac.jp/sangaku/> をご参照ください。

フェニックス協会についての入会方法および活動情報は <http://kyoryoku.hiroshima-u.ac.jp/> をご参照ください。

■ スタッフ紹介 no.13

「文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業 EDGE ひろしまアントレプレナーシッププログラム」を担当する職員を紹介致します。今回は川瀬真紀氏。

EDGE
PROGRAM



川瀬 真紀 kawase maki

担当:

課題発見・解決型アントレプレナーシップ教育のデザイン・実施、企業・組織イントレプレナー活動への支援・協同、ライフ・ロング・ラーニングの地域社会への展開

職歴:

ミネソタ大学 Extension Urban Youth Development Office、ミネソタ大学 Office for Equity & Diversity Business & Community Economy Development、ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社、UBS スイスユニオン銀行フィリップス・アンド・ドリュエ証券会社など

専門:

調査デザイン、評価デザイン、質的な調査、課題発見・解決型 (PBL) 教育、クリエイティビティ教育

ひとこと:

ライフ・ロング・ラーニングを通して、学修者がイノベティブに考え、行動するための心がまえやスキルを育む機会づくりを中心に活動しています。文部科学省グローバルアントレプレナー育成促進事業「EDGE ひろしまアントレプレナーシッププログラム」を担当する中で、企業、行政、金融、教育機関との連携をさらに深めながら、学内・学外でのワークショップ型講義、研修を実施しています。

TEL: 082-424-7880 (VBL オフィス代表番号)

E-mail: mkawase@hiroshima-u.ac.jp

編集後記

今回より、会員様へのインタビュー記事が始まりました。「つながる」を通じて情報発信を行いたい!という会員様がおられましたら、techrd@hiroshima-u.ac.jp までお気軽にご連絡下さい。



発行: フェニックス協会事務局 (広島大学 社会連携グループ内)

〒739-8511 広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-5871 / FAX: 082-424-6189 / E-mail: syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先: 広島大学 産学・地域連携センター 国際・産学連携部門

〒739-8511 広島市鏡山一丁目3番2号 TEL: 082-424-4302 / E-mail: techrd@hiroshima-u.ac.jp